

2011 アートマイル 報告書

日本学校名[山梨市立 山梨北中学校] 担当教諭名[五味 一也] (1~3年 21名)

交流相手国[ルワンダ]

海外学校名[セント・ベルナデット高校] 担当教諭名[坂寄 綾先生]

■実施教科・時間数について教えてください。

実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した時間 総合は外国語活動、環境 など内容が分かるように。 必要に応じて行を追加して ください。	部活動（美術）		20

■作品について教えてください。

題（テーマ）	空はつながっている
絵に込めたメッセージ 作品展示の際に掲載 することがあります。	地球の反対側にあるルワンダと日本。どちらも大きな傷手から立ち直ろうとしているのが現状だった。厳しい現実よりも、明るい未来を描こうということで、空はつながっている、をテーマとした。

半分描いた絵と完成作品の画像を貼付してください。 ※Web 公開しますので児童の顔などの扱いにご注意ください。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 海外の生徒と深い交流が図れた。 大人しい美術部の生徒に動きのある活動を経験させることができた。 日本文化を改めて考えるきっかけとなった。 	もっと計画的に交流の場を設け、生徒ひとりひとりが相手の名前をしっかりと知り、ひとりの人としてつきあいができれば、もっと絆が深まったように感じる。

■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
生徒会を通じた校内への周知 職員への連絡	展示した作品や、制作中の様子を見た先生、生徒の興味を引き、海外の生徒との交流の賜であることを知ると、驚いた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	9月	・活動内容を把握し、計画を立てた。 ・地図を使ってルワンダの場所を確認した。	事前に内容を確認してあったので驚きは少なかったが、どんなことをするのだろう、という期待感が感じられた。	部活動
情報収集	10月	・図書室やインターネット、映画「ホテルルワンダ」などを見て、文化や風土、歴史などを学んだ	調べるほどにジェノサイドの黒い歴史を目の当たりにすることになり、1年生が多くを占める本校の部としては、暗い内容に雰囲気重くなった	部活動
テーマ検討	11月	・相手校とビデオメールや掲示板、メールのやりとりをし、自己紹介をした。 ・「絆」のもと、「復興」からイメージをふくらませてテーマを決めた。	日本もルワンダも暗い歴史から立ち上がるとうとする「復興」が共通点としてあげられたが、より明るい未来を描こう、という生徒が多かった。	部活動
制作	12月	・集中的に下描き、着色をすすめた。	丸2日、下描きからはじめたが、共同制作の楽しみを味わいながら、完成した半分の絵を前に満足げだった。	部活動
鑑賞	3月	返送された絵を鑑賞した	3月14日に届いた絵を、翌日早速広げ、生徒は皆感激していた。	部活動

■学習目標と成果はどうでしょうか？

「重視」には指導にあたって重視した順位を数字で記入してください。

「先生の手応え」の評価 (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:まったく関連がなかった)

つきたい力・指導目標	重視	先生の手応え	そう感じた場面・理由
自文化の理解	5	5・4・③・2・1	調べる過程で、相手国と日本を比較することで自然と学んでいた
異文化の理解	4	⑤・4・3・2・1	主にインターネットや図書からルワンダのことを知った。知るほどに暗い歴史の存在を知り、重い雰囲気になった。
コミュニケーション力(説明・共感・英語)	3	5・④・3・2・1	とくに1年生は覚えてたのI am・・・を使っての自己紹介だったが、盛り上がった。
情報活用能力(情報収集・発信)	9	5・4・③・2・1	インターネットの利用はあまり慣れていないらしく、手間取った。
人間関係をつくる(学級内・交流相手)	2	5・④・3・2・1	自然と役割分担をしながら、互いに譲り合いや率先して仕事を引き受ける姿がみられた
協働する力(役割分担・協力)	1	5・④・3・2・1	はじめは譲り合いながら、徐々にそれぞれの意見を交換しながら制作をすすめていた
学習を追究する意欲	6	⑤・4・3・2・1	いつもは個の制作で下を向きがちな生徒たちが、互いに見合っって笑っていた。満足そうだった。
表現力(伝えたいことを絵で表す)	7	5・4・3・②・1	もっとテーマに迫る図案を練り上げれば良かった
作品を鑑賞する力	8	5・4・③・2・1	出来映えよりも、活動に満足している姿が見られた。これも鑑賞だと感じた。